

ごみ減量市民会議について

1. 平成30年度の事業報告
・啓発活動を中心に年度目標はほぼできたと感じています。
・全般としては市民会議のメンバーは良く活動したように思うので、それなりの成果があったと思う。
・エコ料理教室など新しく始めた事業にスポットを当ててほしい。
・市民会議の目的が達成出来たと考える。机の上での会議から行動を起こす活動に切り替えて実践出来た事、行政と協力しながら知恵を出し合い各地域への出前活動も達成できたと思います。
・広報広聴課にごみ減量についての掲載要請及び掲載内容の検討。
・フードドライブの取り組み、推進。
2. 3年間の総括
・活動実績は、今までの活動をまとめるだけになるので、成果と課題を明確にする必要があると思います。
・次年度も続けるのであれば参考になるようなまとめ方が必要。
・3年前と数字で比較できるデータを示し、客観的に成果がわかるように。
・削減目標－25%と実績の評価 なぜ達成できなかったかの分析が必要。
・減量出来たか判らないけれど増やさない事が出来た様に思います。有料化に持って行けた事も大きな活動であったと思う。住民の中では大幅にごみは減ったと思う方が多くおられ、どうまとめて報告するやり方を考えなければいけないと思う。
・環境フェスティバル、いこま魅力博でのごみ減量啓発。
・燃えるごみ減量啓発パンフレットの政策、配布。
・エコクッキング教室を開催し、食品ロス削減及び分別についての啓発。
・ごみ減量について自治会、団体との意見交換、啓発。
3. 平成31年4月から7月までの事業計画
・キューロの製作は定着して来たがフォローアップに力を入れて行かなければならないと思う。
・生駒市広報誌「いこまち」に記事掲載。
・広報誌「いこまち」に燃えるごみ減量の取り組み記事掲載。
4. 平成31年7月以降の活動について
・ごみ減量目標を達成するには現在の啓発を中心にした活動では大きな進展は望めません、このまま継続しても達成感がないので解散の方が良いと思います。
・継続するとしたら新しいメンバーで新しい視点からトライする方が良いのでは。
・真に減量目標を達成するのであれば、生駒市独自の取り組みが必要ではないでしょうか。
(例) 1、生ごみの資源化・・・一般家庭が無理であれば学校給食の残飯や事業所の残飯などから始めたら良い
2、一般プラスチック(おもちゃ・家庭用品 など)の回収資源化
3、資源ごみ回収を自治会任せにせず全ての自治会において、家庭から戸別回収できる仕組みを作る
他にもいろいろあると思います、有料ごみ袋売上資金を使い新しい仕組み作りが必要だと思います。

・市民にゴミ減量を地道に訴えて来た活動は、ミックスド・ペーパーはリサイクルされることを知って貰ったり、プラスチックをリサイクルに回せば環境にも、生駒市にも、自分の家庭の出費にもメリットがあることを訴えてきて、市民にあるていど認知されたことは評価されるべきものと思うが、結果を振り返ると微々たるものと言わざるを得ない。ターゲットは「生ごみ」であることが明確になった今、従来の活動は続けて自治会への啓蒙を続けることは必要と思うが、これに甘んじてこの活動を続けて行けばよいとの考え方では、微々たるものの積み重ねにしかならない。ターゲットが明確になった今、そのターゲットを如何にして崩して行くか？新たな技術の探索も行って行く必要があると考える。

・モデル都市としての形づくりが必要と考えています。環境を母体とした協議会の設立を希望します。

・ごみ3R推進月間の設定・周知・イベント企画。

(標語、川柳、絵画、ごみ減量取り組み体験談、キエーロ体験作品など)

・各種生ごみ処理器の補助の拡大、市民への利用促進・フォロー。